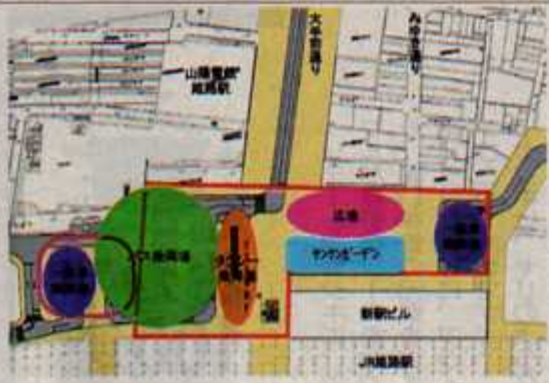


「車道渡らず大手前通りへ」

姫路・新駅前広場整備 専門家ら提言

JR姫路駅の周辺整備にとまない駅北側につくられる新駅前広場のレイアウト(施設配置)について、都市デザインなどの専門家が姫路市で取りまとめられた複数案を比較・検討した結果を提言書にまとめ、21日、石見利勝市長に手渡した。同市が公表している3案のうち、広場のほぼ左右(東西)に一般車やバス、タクシーの乗降場を配置する案Ⅱ(Ⅲ)を推薦。歩行者が車道を渡らずに駅から広場を通して直接、大手前通りへ往来できる点などを評価したという。(石川和彦)



姫路市はこの提言も参考にしてい案にしほり、施設配置案を審議してある姫路駅北駅前広場整備推進会議(事務局・市姫路駅周辺整備室)の第7回会議(8月4日)で報告する。交通事業者らと協議のうえ、今年度中に基本設計をまとめることにしている。

今回の専門家による3案の比較・検討は、姫路市のNPO法人スローソサエティ協会が企画。中井檢裕・東京工業大教授(社会システム)や小林正美・明治大教授(景観デザイン)ら6人が19日に姫路市内で議論

東西に乗降場配置案推す



3案を議論する専門家＝同市

をした。推薦しなかった2案については、タクシーの乗降場を広場の中央部の右側(東側)に持ってきており、駅の中央コンコース前の空間が広いなどの長所があるが、歩行者が車道を横断しなければならぬなどの点が短所との指摘があったという。推薦した案についても、駅の中央コンコース前の空間が狭いなど改善すべき点はあるとされた。

21日に石見市長に提言書を手渡した小林教授は「欧米では人間を中心としたまちづくりが進められている」とし、専門家が推薦した歩行者が安全に駅前を行き来できる案の採用を訴えた。